

平成13年度活動状況

第25回酒米懇談会においては、各地における酒米の開発(3題)、原料米に関する研究成果(2題)及び最近のイネ品種の開発をテーマとした講演があり、様々な観点からの意見交換がなされ、出席者にとって大きな収穫があった。

原料米の全国統一分析においては、12年度産米について例年どおり分析を行い、94品種307点の原料米の分析値を取りまとめ、これらから予測される性質について関係者へ報告した。

また、平成13年産米のうち早期に収穫された28点の酒米について分析を行い、併せて造り初期における各支部の酒造概況を取りまとめて12月に各支部へ報告した。さらに、12月初めまでに各支部において分析が終了した89点について取りまとめ、第1次の速報として関係者へ報告を行った。最終的に313点の分析が行われた。

2 総会、研究会の開催

(1)平成13年度酒米研究総会及び第27回酒米研究会

イ 開催月日 平成13年5月29日(火)

ロ 開催場所 東広島市民文化センター

ハ 配布資料 平成12年度事業報告及び収支報告並びに13年度事業計画及び予算案、平成12年度産米の分析結果及び平成13年度産米の分析計画等

(2)第25回酒米懇談会

イ 開催月日 平成13年10月11日(木)

ロ 開催場所 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学合3教室

ハ 講演内容 「醸造原料穀物の細胞壁機能とその利用」(独立行政法人酒類総合研究所 小関卓也先生)、「富山県育成酒造好適品種「雄山錦」について」(富山県農業技術センター農業試験場 山本良孝先生、富山県酒造組合 古市明紀先生)、「青森県の酒造米開発の現状」(青森県工業試験場 村中文人先生)、「原料米タンパク質の溶解性」(黄桜酒造株式会社 古川幸子先生)、「北海道の酒造好適品種「吟風」」(北海道立農業試験場 丹野久先生)による講演が行われた後、「オリノバのイネ品種開発」という演題で株式会社オリノバ代表取締役の久保友明先生による特別講演が行われた。

ニ 出席者 69名

3 原料米全国統一分析

(1)研究会支部の状況

原料米全国統一分析に関しては、平成13年12月末現在で参加しているグループは試料の採取を依頼している県農業試験場等を含めて27支部である。

(2)平成12年度産米の分析

平成13年1月～2月に前年から引続き平成12年度産米の分析を行い、94品種307点についての分析結果をまとめ、平成13年6月8日付で分析を担当した各支部及び日本酒造組合中央会会長に報告し、また、国税庁へ情報提供した。

(3)平成13年度産米の分析

イ 早期分析 平成13年度産米の性質把握のための早期資料とするため、事務局で実施した早期に収穫された28点の分析データ、気象及び収穫に関するデータ並びに各支部より報告を受けた酒米の性状に関する造り初期の酒造概況を本年産米の早期予測(0次)として平成13年11月30日付で関係者及び各支部に報告した。

ロ 1次分析 平成13年度産米については、12月始めまでに分析の終了した89点について結果をまとめ、0次分析結果と合わせ平成13年度産原料米の性質を予報し、平成13年12月7日付で関係者及び分析を担当した各支部に報告した。

ハ 2次分析 2次分析については、196点の分析結果の報告があり、0次及び1次結果を合わせると313点となった。

4 刊行物の発行等

・第25回酒米懇談会要旨集

5 研究連絡活動等

平成12年度酒造用原料米全国統一分析結果

平成13年度酒造用原料米全国統一分析結果(0次)

平成13年度酒造用原料米全国統一分析結果(1次)

上記の分析結果と早期の全国の酒造概況の送付を行った。